

## 紋別郡滝上ノ町の石灰石

湊 正 雄\*

## まえがき

紋別郡滝上ノ町管内の石灰石について、1954年9月下旬に現地を訪れる機会をえたので、その結果について、次に報告する。

## 1 地質概要

この地域の地質については、従来は、あまり多くのことが、明らかにされていないようである。しかしながら、この地帯には、時代未詳のいわゆる古期岩類が、ひろく発達しており、それをおおつて、滝ノ上市街地西方・札久留・白鳥松府・オシラネップにかけて、第三紀層が分布していることがわかつていた。さらにオシラネップ川の上流には、諸所に火山岩類の発達することも知られていた。

今回の調査で、筆者は滝ノ上市街地→札久留→本流沿い十四線→滝西→岡部沢(狐山△628.1より北西に向う沢)などを巡検したにとどまるが、この間に見聞した点を要約すると、次の通りである。

**地形：** サックル原野を西流するサックル川と、滝の上原野を北流する渚滑川とは、滝ノ上市街地で合流している。この両河川は、ともにその両岸に、広い洪積台地を有している。台地には、大別して上下2段(高距差約20m)の段丘面がみとめられる。いずれも、厚い砂礫層をのせており、段丘面をとりまく急崖には、輝緑凝灰岩・粘板岩(一部に珪岩)などの古期岩類、あるいは第三紀層に属する砂岩・泥岩・礫岩などをのぞかせている。サックル川では沖積地は川の兩岸、台地の間にかかなり広く発達しているが、本流沿いでは、はなはだせまいのが一般である。いうまでもなく、この沖積地も砂礫によつて埋積されている。

これに対して、この洪積台地の外側には、いちじるしく解析された山地があり、地形的に顕著な対照を示す。この部分は、古期岩類と第三紀層および火山岩によつて構成されている。

洪積台地・沖積地は農耕地として開発されており、

山地には森林をみる。

**古期岩類：** 十四線(東岸)附近には、輝緑凝灰岩が発達しているが、これには i) 無層理で赤紫色を呈し、やや軟弱なもの、ii) 珪岩と薄互層するもの、iii) 層理がよく発達し、緑色、堅硬なものなど、種々のものがある。iii) は、しばしば造崖性で5万分ノ1地形図にも、露崖の印として、その分布地を明らかにしている。問題の石灰石は i) の輝緑凝灰岩に接して発達している。

また十四線(西岸)南方で街路が大きく彎曲する附近、滝西モセガルシナイ沢入口、および岡部沢下流には黒色粘板岩(一部に珪岩)が発達している。

上記の古期岩類の時代を判定することはむずかしいが、いわゆる日高系に属するものであろう。

**第三期層：** 滝ノ上市街地西方神社下には礫岩、札久留の峠には砂岩・泥岩の露出をみる。礫岩はいわゆる古期岩類からなる細礫によつて構成され、基質の砂岩は、わずかに緑色を呈する。なお、岡部沢中流にみられる泥岩・緑色をおびた砂岩などは、あるいは第三紀層にふくまれるものかも知れない。これらの第三紀層についても、時代を判定できるだけの資料は、えられなかつたが、おそらくは、中新世のものであろう。なお、上札久留では炭層をはさみ、わずかに稼行したことがある。

岡部沢の上流には、(高距400m以上)安山岩・石英粗面岩(一部リソグライト質)が発達している。おそらく、中新世の所産であろう。

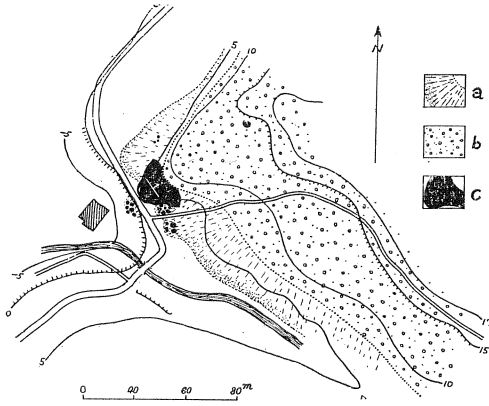
**洪積層：** 前記の洪積台地を構成する砂礫層は上下ともに、おそらく洪積世末葉のものであろう。

## 2 石灰石

1) 十四線(東岸)の道路が洪積台地から山地にかかるというあたりに、厚い砂礫層におおわれて古期岩類がみられる。その中に石灰石が露出している。

地質図中、黒色で示した部分は、実際に石灰石の露出している部分で、道路面の地なみ以上の可採量は、3,000 ton 内外である。

\* 北海道大学理学部地質学鉱物学教室



滝ノ上町の石灰石岩体附近地質図

しかしながら、図中に○印を付した部分の崩土を発掘してみるならば、あるいは、石灰石は、もう少し広く、発達しているかもしれない。

けれども、図にも明示してある通り、この台地には、

厚さ約 10 m にも達する、厚い砂礫層が発達している。したがって、その未露出の石灰石は（もしあつたとしても）、余程の鉱量が期待されないかぎり、稼行にはたえないであろうと思われる。

なお、露出面でみると、石灰石は夾雑物も少なく、分析の結果も良質なものである。

2) 滝西・岡部沢に石灰石の転石が多いという情報があつたので、入口から約 1.5 km, 高距 460 m の地点まで踏査した。しかし、ついに露出位置をたしかめることができなかった。

しかしながら、この付近には数 ton に達する石灰石の転石が多く、この上流を踏査することによつて将来、その原位置をたしかめることができるであろう。

けれども、搬出路その他の点で、この沢のものも、余程の鉱量が期待されないかぎり、当分の間、開発は見込みないものと思う。